

一般社団法人 倫理研究所  
令和5年度  
年次報告



2022-2023  
ANNUAL REPORT

# 一般社団法人倫理研究所 令和5年度 年次報告

ANNUAL REPORT

令和4年9月1日～令和5年8月31日

## CONTENTS

### 4 活動トピックス

- …「倫理法人会7万社大会」を開催
- 6 …米国倫理普及50周年
- 8 …「奇跡の一本松の根展」が閉幕
- 10 …青少年の健全育成
- 12 …「地球倫理推進賞」の贈呈
- 13 …しきなみ子供短歌コンクール
- 14 …創始者生家に頌徳碑が完成
- 15 …丸山奨学金による支援
  - …他団体への寄付・協賛
  - …ラジオ番組の提供
- 16 …倫理の研究と成果の発信
- 18 …家庭倫理の普及
- 20 …企業倫理の普及
- 22 …海外の普及
- 23 …書道や短歌などの文化活動
- 24 …倫理を学ぶ多彩なセミナー
- 26 …出版物の刊行
- 28 …組織概要
- 29 …家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
- 30 …主要施設
- 31 …沿革

令和5年度、倫理運動は創始77周年を迎えました。引き続き「地球倫理の推進」「日本創生」の二大理念をスローガンに掲げ、誇りある日本文化の本質を学ぶとともに、「共尊共生」の理念の実現をめざして諸事業を展開。想定外のパンデミックを経て、世界ではさらなる対立・分断が深まるとした自己変革を志す挑戦者を増やしました。「倫理共

同体」をゆるぎないものにしつつ、地域および日本の活力向上に資する諸事業を積極的に展開して、海外との連携も強化しました。

研究部門では、専門研究者を中心とした研究体制のもとで純粹倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通じて、成果を国内・海外へ発信しました。また、令

和4年11月に「倫理文化研究センターシンポジウム2022」を開催し、内容を『倫理文化研究叢書9』として刊行しました。

普及部門の生涯局では、「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、地域における家庭教育力の向上を進め、愛和の家庭づくりをめざす人々の輪を広げました。支部活動を会活動の中、位置づけ、全国各所で

「支部長・促進長研修」を開催。また、青年会員を対象に、8カ月間の体験学習プログラム「青年倫理塾」とその成果発表として「青年フォーラム」をそれぞれ全国4カ所で実施し、社会の中でたくましく生きる力を磨きました。

文化活動は、書道・短歌によって世代をつなぎ家族の絆を深める芸術活動を開きました。また、「第18回



# 自助自立の精神と矜持を高め

## 日本創生をめざした令和5年度。

しきなみ子供短歌コンクール表彰式」を、しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞の受賞者3名とその家族や関係者を招いて開催。本コンクールは伝統文化の継承、子供たちの国語力、感受性の向上に貢献する公益事業として、文部科学省をはじめ教育関係者からも高く評価されています。

に向けた普及計画を力強く推進。純粹倫理を正しく学んで実践に励み、家庭や職場・地域社会における連帯の絆を強化して「心の経営」をめざす同士の輪を拡げました。

教育部門では、秀逸な建築空間を舞台に、富士山麓の豊かな自然に触れ合い、受講者が自身の心を深く見つめ、心身の免疫力の向上を図る各種セミナーを開催しました。疫禍の収束に伴い、受講者数は平成30年度の実績に近づくまで回復し、4204名となりました。また、令和3年度から実施していた富士高原研修所の屋根の大規模改修工事も完了しました。

出版部門では、隔月刊誌『倫理ネットワーク』、週刊紙『ニューヨークビズ』に連載・掲載されたコラムの中から76話を厳選してまとめた『風のゆくえ』を刊行。定期刊行物も計画通り発行し、「標語カレンダー」と「実践手帳」も好評を博しました。

令和5年3月9日にかけて開催。延べ1万9001名の来場者に多くの感動を与えるとともに、倫理研究所の認知度および好感度の向上に大きく寄与しました。

国際部門は、引き続きリモートでの活動支援を主軸に、関係各国との連携を強化し、国情に応じた倫理普及および地球倫理の実践活動を推進しました。また、アジア諸国の留学生8名と中国・内蒙古大学にて、「丸山奨学生金」を支給しました。

本年次報告では、令和5年度の事業について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。



# 「倫理法人会7万社大会」を開催

## 令和5年度 活動トピックス

社会教育団体として、  
様々な生涯学習活動を  
展開しました。

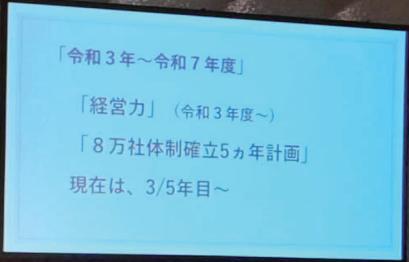
01

### 8万社への飛躍を誓う

令和4年11月5日～6日にかけて、「倫理法人会7万社大会」が開催されました（於：グランドプリンスホテル新高輪・飛天）。全国の倫理法人会の代表者ならびに「倫理17000」ライセンス認定企業の974名が参集。会員企業数7万社達成の喜びを分かち合ない、未来に向けて倫理経営のさらなる推進を誓い合いました。

大会の幕開けは、倫理法人会誕生に至る経緯から現在までの歴史や先人の想いを映像で振り返りました。その後、47都道府県の会長・代表者が、今回新たに製作された都道府県旗を手に入場。次いで、亡き諸先輩に感謝を込めて黙祷が捧げられました。

引き続き、実行委員長を務める法人局の和田毅局長が、コロナ禍を乗り越えて開催できた慶びを述べ、「皆様と共に体の絆をさらに強める契機にしてい」と力強く開会を宣言。大会初日は活動表彰が行なわれ、会友の功績が称



えられました。次に倫理研究所が展開する公益事業の使命について前川朋廣副理事長より紹介されました。

スペシャリストとして、日本を代

表する建築家であり、倫理研究所紀尾井清堂の設計ならびに富士高原研修所の建物と庭園のデザインを手がけた内藤廣氏が登壇。建築家の観点から現代日本の課題、資本主義社会における富士高原研修所と紀尾井清堂の意義や役割、設計コンセプト等を紹介しました。

「令和3年～令和7年度」  
「経営力」（令和3年度～）  
「8万社体制確立5ヵ年計画」  
現在は、3/5年目～

2日目は、令和7年に迎える倫理運動創始80周年・倫理法人会設立45周年に向けて、全国の会のさらなる活動の充実を支援する法人局の取り組みを紹介。丸山敏秋理事長による「理事長メッセージ」では、堺屋太一氏の「現在の日本は3度目の敗戦を迎えている」の言葉を引用し、価値観の大転換の時代を迎えた今こそ国民の体质改善が求められていると指摘。「過去を受け入れないことは現在と未来はない」と力を強調し、日本創生のために自助努力の精神を呼び戻そうと訴えました。

最後に、倫理法人会が「明るく美しい日本」建設の一助となることに期待を寄せ、「明朗」「愛和」「喜勵」のバランスがとれた活動を行なうことと、会員が一人となつて取り組む共通の実践として「人は鏡」「万人幸福の栄」第4条の実践を呼びかけました。





# 米国倫理普及50周年

## 半世紀の節目を祝う

02

令和5年4月16日、ダブルツリー・バイ・ヒルトン・トーランス（カリフォルニア州トーランス市）で「米国倫理運動創始50周年記念式典」を開催。地元会員や家族、未会員など161名が参加し、日本からは丸山敏秋理事長が5年ぶりに出席しました。

第1部の記念式典は日米両国の国歌斎唱で開幕。米国における歴史を映像で振り返りました。米国の倫理運動は、1947年に創始者・丸山敏雄が、南カリフォルニア在住の西本莞爾・ミナヲ夫妻に手紙を通じて倫理指導をしたことが始まりでした。

ミナヲ夫人は、倫理運動草創期に創始者を支え、「四天王」と称された愛弟子の一人である青山一真氏の実姉で、会員として機関誌『文化と家庭』（現『新世』）を購読していました。その後、夫妻の思いを受け継いだ嫁の西本シズエ氏が倫理を学ぶ座談会を開催し、現地の日系人の間で地道な活動が継続されました。1973年のロサンゼルス分会場開設を契機

に組織的な活動がスタート。この年が米国倫理運動創始の年として記録されました。その後も着実な活動が続けられ、現在ではアメリカ合衆国政府認可のNPO法人「倫理研究所USA」のもと、個人会員組織「南北カリフォルニア倫理の会」と、法人会員組織「南北カリフォルニア州倫理法人人会」が活動を展開。英語による活動も視野に入れながら、米国に普く倫理を伝えようと奮闘しています。

次いで、米国倫理運動の先駆けとなった西本家を代表し、孫のアリス西本氏に、飯田隆大会会長から感謝の花束が贈呈されました。さらに、米国の活動を支えた功労者7名に、それぞれ感謝状と記念品が贈呈されました。代表して挨拶に立った倫理研究所USA初代会長の梅本豊造氏は、倫理との出会いや約30年にわたり実践の思い出を語りました。その後、米国事務所の伏木久登所長が式辞を述べ、戦後から着実な活動が続けられ、本日の節目を迎えることができた喜びを話しました。

来賓を代表して在ロサンゼルス日



7名の功労者に感謝状が贈られた



飯田隆大会会長より花束を受け取るアリス西本氏（右）



半世紀の節目を契機にさらなる発展を誓う参加者

1947年	ロサンゼルス在住の西本莞爾・ミナヲ夫妻が創始者・丸山敏雄から手紙による倫理指導を受ける。
1955年	西本家に嫁いだシズエ氏が、倫理を学ぶ座談会を開催。
1972年	日本から第1回米国倫理普及旅行団が渡米し、地元会友と日本の会友が合同で「朝の集い」を開催。
1973年	(米国倫理運動創始の年) 土屋清次氏を分会場長に、ロサンゼルス分会場が開設される。
1980年	ガーデナ分会場が開設(分会場長：奥本敏明氏)。
1984年	しきなみ短歌会および秋津書道会ロサンゼルス支苑発足。
1995年	「倫理研究所USA」が、カリフォルニア州政府にNPO法人の認可を受ける(会長：梅本豊造氏)。
1997年	「倫理研究所USA」が、アメリカ合衆国政府にNPO法人の認可を受ける。
2016年	米国初の倫理法人会・南カリフォルニア倫理法人会が設立(会長：飯田隆氏)。
2017年	オレンジカウンティ倫理法人会が設立(会長：ギラム真理子氏)。
2018年	カリフォルニア州倫理法人会設立(会長：飯田隆氏)。南カリフォルニア倫理法人会はロサンゼルス倫理法人会に改称(会長：山本明美氏)。
2022年	サンディエゴ倫理法人会設立(会長：東真史氏)。

本國總領事館の栗原靖子領事が祝辭を述べた後、飯田隆倫理研究所U.S.A.プレジデントが「普遍の生活法則である倫理をアメリカに広く伝えよう」と呼びかけて第1部が閉式しました。

第2部は、丸山理事長が「日本の心を世界に一大変動の時代だからこそ」と題して記念講演。世界各地での対立・分裂・分断が深まる現状を踏まえて、調和した世界を創生するため、日本生まれの純粹倫理の特徴と倫理運動が果たす役割を解説。参加者は熱心に耳を傾けました。

第3部の記念会食も同会場で開催

され、来賓を代表して南カリリフォルニア県人会協議会の北垣戸和恵会長が挨拶。乾杯の発声は南カリiforniania日系商工会議所の竹花晴夫会頭が行ない、参加者が親交を深めました。記念会食の中では、「第18回しきなみ子供短歌コンクール」に米国から応募し、見事入選した宍倉諒さん(小学2年生)に、表彰状の授与が行なわれ、賞賛の拍手が会場に響きました。会友が一丸となつて取り組み、盛会裡に終えた本式典。翌日には丸山理事長への地元テレビ局の取材もあり、米国の倫理運動のさらなる発展の契機となりました。

# 大きな感動を残して

「奇跡の一本松の根展」  
が閉幕

令和4年3月11日にスタートした  
「奇跡の一本松の根展」が、12カ月間に  
わたり展示を経て、令和5年3月9

日で終了しました。展示会場となっ

た紀尾井清堂には、国内外から延べ  
1万9001名が来場し、震災の記憶  
を蘇らせるとともに、被災地における  
復興への思いに触れました。

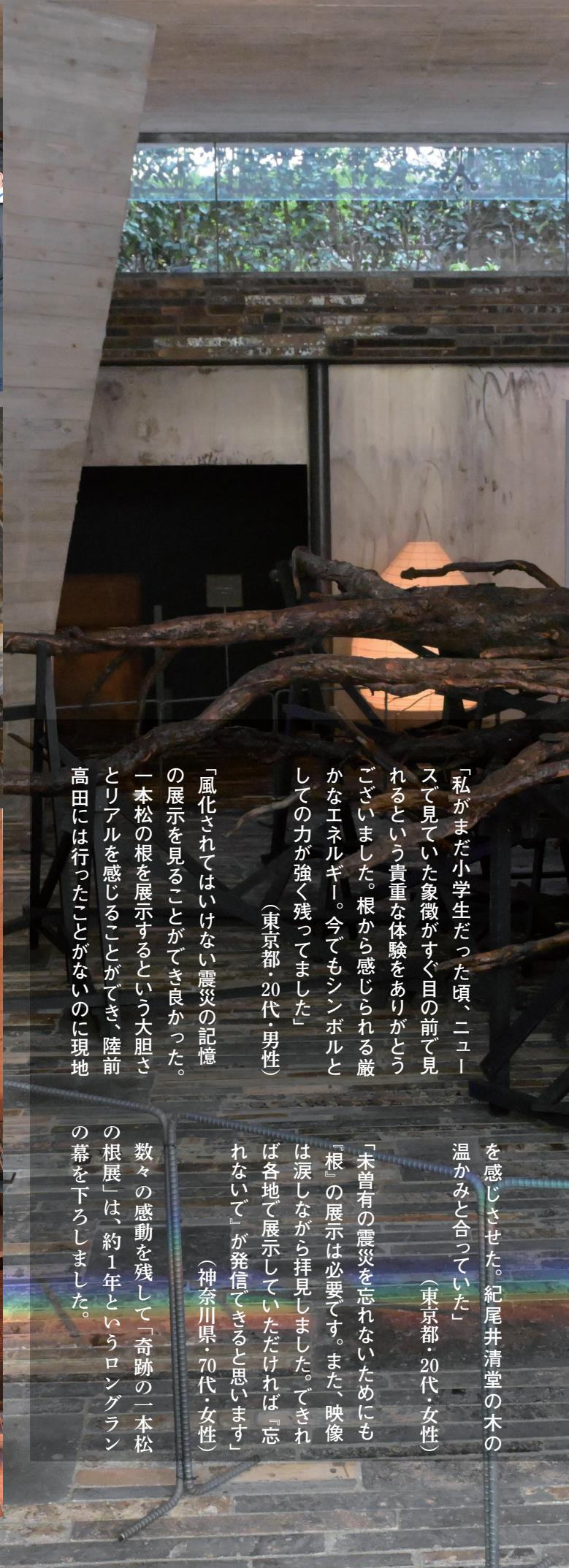
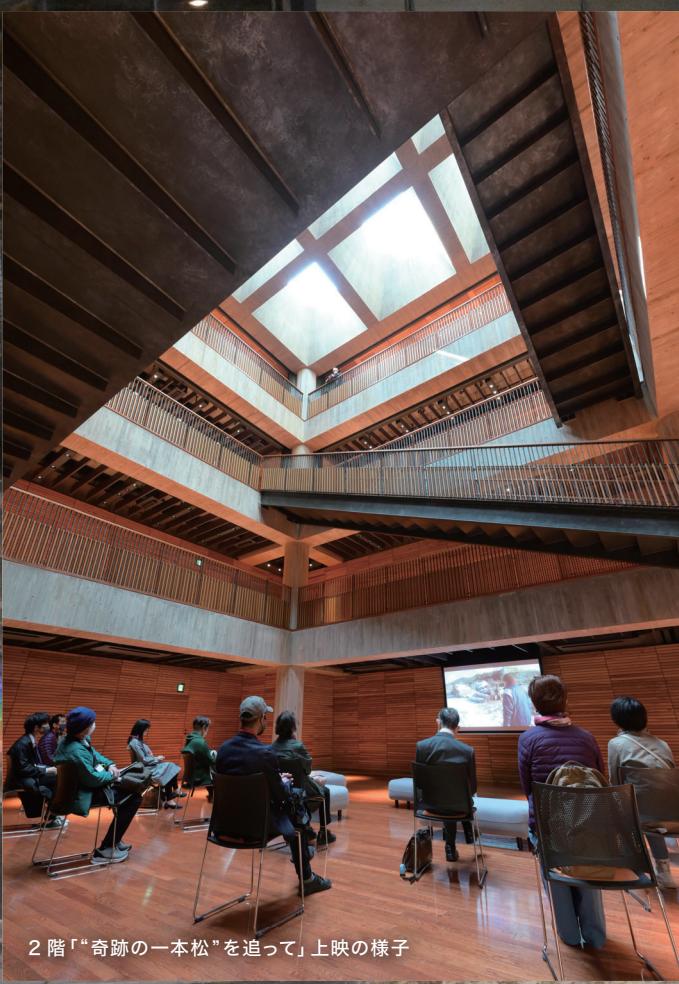
本展示会の発起人である建築家の  
内藤廣氏は、長く東日本大震災の復  
興事業に携わり、被災した人々に心を  
寄せてきました。ある時、陸前高田市  
で保管されている「奇跡の一本松の根」  
を見た氏は強い感銘を受け、「より多  
くの方にこの根に触れていただくこと  
もに、遠くなりつつある被災に想いを  
馳せる動機付けになれば」と願い、展  
示の許可を得ました。こうして、内藤  
廣建築設計事務所、陸前高田市、倫理  
研究所の三者共催で、岩手県外で初め  
て根の全体像が公開されることとなり  
ました。

内藤氏の提案により始まつた展示  
会は、紀尾井清堂1階では「根」の展示

を、2階ではドキュメント映像「『奇跡  
の一本松』を追って」(NHK 2013  
年)を上映。見学者は、根を一目見て  
感嘆の声を上げたり、見学時間一杯ま  
で根と「対話」したりと、思い思ひに  
時間を過ごしました。

本展示会で初めて紀尾井清堂が一般  
公開され、建築関係者や建築を学ぶ学  
生も多数来場。そのほか、校外学習の一  
環として近隣の小中学生も訪れるな  
ど、日本国内だけでなく、海外からも  
1000名を超える方が来場しました。  
また、TwitterやInstagramなどのSNSで大きな反響を  
呼び、SNSを見て展示会に訪れる人  
が後を絶ちませんでした。観覧後には、  
被災された方からのエピソードや本展  
示会への謝意など、計1600件を超  
える多数の感想が寄せられました。

「震災で多くの人々や大切なモノが、  
この大きな根の直ぐそばを流れたこ  
とを想像すると、何度も涙がこみ上  
げてきた。何年経っても忘れてはい  
けない出来事だと、改めて痛感した」  
(神奈川県・50代・女性)



「私がまだ小学生だった頃、ニュースで見ていた象徴がすぐ目の前で見れるという貴重な体験をありがとうございました。根から感じられる厳かなエネルギー。今でもシンボルとしての力が強く残ってました」  
（東京都・20代・男性）

「風化されてはいけない震災の記憶の展示を見ることができ良かつた。一本松の根を展示するという大胆さとリアルを感じることができ、陸前高田には行ったことがないのに現地

数々の感動を残して「奇跡の一本松の根展」は、約1年というロングランの幕を下ろしました。

「未曾有の震災を忘れないためにも『根』の展示は必要です。また、映像は涙しながら拝見しました。できれば各地で展示していただければ『忘れないで』が発信できると思います」  
（神奈川県・70代・女性）

を感じさせた。紀尾井清堂の木の温かみと合っていた  
（東京都・20代・女性）

# 「未来を創る」青少年の健全育成



明治神宮で正式参拝と「第1期青年倫理塾 修了式」を行なった塾生61名

## 04 青年育成の取り組み

### 青年倫理塾「I-M-A」

青年の新たな育成事業として企画された「青年倫理塾」は、令和5年1月～8月にかけて全国4カ所で開催されました。「日本文化の本質を探究し、自分のルーツを辿る」を共通テーマに掲げ、歴史や信仰、伝統文化に加え、日本の美しい原風景を巡りながら、親や祖先とのつながりを実感する体験学習プログラムを4カ所それぞれで企画・実施しました。

全国13カ所の由緒ある神社で、神職から正式参拝の作法や神話にまつわる話をうかがうなど、普段はできない特別な学びを体験。また、各地の遺跡や博物館では、古代の歴史や文化、世界の民族に関する知識を深めました。さらに、沖縄県や鹿児島県では、日常の喧騒から離れ、美しい自然に囲まれた環境で自己と向き合いました。そのほか、書き初め会では新年の決意を示し、短歌会では日常の感動を三十一文字で表現。沖縄では、奄美諸島・沖縄諸島などに伝承される歌謡「琉歌」づくりを体験しました。



青森県・三内丸山遺跡にある建物跡

令和5年8月5日には、「第1期青年倫理塾修了式」を明治神宮で開催。明治神宮国際神道文化研究所の打越孝明先生を招いて、特別講演も拝聴。全国から集まつた塾生たちとともに正式参拝し、全工程が終了しました。

これらの体験的学習を通した自分のルーツを辿る実習の集大成として、「青年フォーラム2023」を全国各地で開催しました。(関連記事19頁)

第1期塾生	人数
東日本	25
西日本	21
九州	13
沖縄	12
合計	71

## 青年倫理セミナースペシャル

### in富士研

10月8日～10日にかけて、富士高原研修所で開催され、全国より18歳～35歳の51名の青年が参加。「ころ・からだ・自然」をテーマに、富士山麓の豊かな自然の中、自身の心身の状態を見つめ直す講座や実習を行なわれました。1日目は「7アクト」と「挨拶実習」が行なわれ、より

よい人間関係を築くポイントを学び、2日目には大切な人について思いを馳せる瞑想や、スピーチを行なわれる、思いが溢れ、涙で言葉を詰まらせる青年もいました。心を空にして、本来の純粹な心（正常心）に触れ、「これまで生かされてきた自分」を顧みて、恩意識を深める機会となりました。



日常から離れた空間で仲間との絆を深めた

## 青年倫理セミナースペシャル

### in東北

東日本大震災から12年が経過した東北の地で「事実を知る」「復興を共に進める」をテーマに開催。昨年に引き続き2回目となる今回は、5月4日～6日にかけて全国から25名の青年が参加しました。

岩手県陸前高田市・釜石市、宮城県気仙沼市・石巻市の震災遺構や伝



震災の記憶と教訓を伝える気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

承館を訪ね、当時の映像や写真などから大自然の猛威を感じるとともに、復興の現状を視察しました。また、地元会員より話をうかがう機会を設け、被災時の様子だけではなく、被災後の苦労や復興に尽力した体験を拝聴しました。参加した青年たちは感謝の念を深めるとともに、犠牲となられた方々へ鎮魂の祈りを捧げた貴重な体験を得ました。

## 第26回 地球倫理推進賞 贈呈式

主催／一般社団法人 倫理研究所

後援／文部科学省・産経新聞社・全国民間放送ラジオ局37社



# 地球倫理の推進に、実践面で貢献している 団体を顕彰しました



【国際活動部門】認定特定非営利活動法人 アムダ

05

### 「地球倫理推進賞」の 贈呈

令和5年3月29日に「第26回地球倫理推進賞贈呈式」を都内ホテルにて開催（後援／文部科学省・産経新聞社・全国民間放送ラジオ局37社）。応募総数は39件（国際活動部門22件、国内活動部門17件）の中から、国際活動部門は「認定特定非営利活動法人 アムダ」（菅波茂理事長）、国内活動部門は「認定特定非営利活動法人 いすみ竹炭研究会」（西澤真実理事長）を表彰しました。

国際活動部門受賞の「アムダ」は相互扶助の精神に基づき、アジア・中南米・ヨーロッパにおいて災害、紛争、貧困に苦しむ人々へ医療と保健衛生を中心とした人道支援活動を展開。国際活動部門受賞の「アムダ」は相

現在は、ウクライナで過酷な状況にある国内の避難者とハンガリーや避難した人々の医療支援に注力し、生鮮食品の支援や子供の心のケアも行なっています。

国内活動部門受賞の「いすみ竹炭研究会」は「竹炭が世界を救う」を合言葉に、放置された竹林の整備を行なっています。伐採した竹を炭加工することで資源として再利用し、竹炭の効能を活かした大地の再生・里山の保全に取り組んできました。豊かな自然を次世代に繋ぐために放置竹林問題の解決を中心に環境改善、地域再生活動に尽力しています。

表彰後の活動報告では、両団体が取り組みと成果を写真や映像を駆使して発表し、出席者に深い感銘を与えるました。



【国内活動部門】認定特定非営利活動法人 いすみ竹炭研究会

# 伝統文化教育への取り組み

## 第18回 しきなみ子供短歌コンクール 表彰式

後援／一般社団法人倫理研究所

後援／文部科学省・全国民間放送ラジオ局37社



左から「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」に輝いた、富井さん、高畠さん、中野さん

### 06 しきなみ子供短歌コンクール

本コンクールは、日本の伝統文化

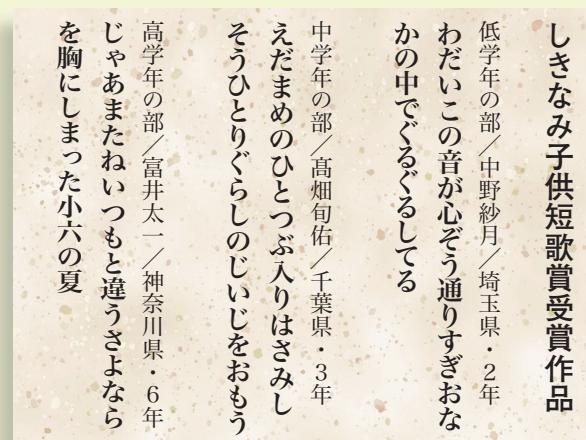
継承への貢献を理念に掲げ、「短歌づくりを通して、子供たちの国語力を養い、豊かな人間性を育む」ことを目的として開催しています。「第

18回しきなみ子供短歌コンクール（後援／文部科学省・全国民間放送ラジオ局37社）には、全国の小学生6万403名（1173校）より短歌

選考の結果、最優秀にあたる「しきなみ子供短歌賞（小学校低学年・中学校年・高学年の部）」の3名、特選20名、入選355名、佳作555名が選出されました。

令和5年2月19日、倫理研究所（東京都千代田区）で行なわれた表彰式には「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」受賞者とその家族を含む40名が出席しました。

「しきなみ子供短歌賞」の受賞者は前川朋廣副理事長より表彰状が授与された後、文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 課長補佐・榎木奨悟氏より「文部科学大臣賞」が授与されました。



表彰式会場の様子。終始和やかな雰囲気のなか行なわれた

# 創始者生家に頌徳碑が完成



厳かに、そして和やかに行なわれた除幕式の参加者

令和4年11月9日に除幕式が開催され、豊前市教育委員会教育長の中島孝博氏、豊前市議会議長の尾澤満治氏のほか頌徳碑の建立に尽力された方々や倫理研究所の役員・職員・会員など30名が出席しました。

主催者を代表して倫理研究所丸山敏秋理事長が挨拶に立ち、昭和18年に創始者が20年ぶりに天和に帰郷したときの様子を紹介し「この頌徳碑を通して、人々が創始者への想いを深めることに期待したい」と述べました。続いて除幕が執り行なわれ、頌徳碑がお披露目されました。

## 07 除幕式を開催

倫理運動の創始者・丸山敏雄の生誕130年記念事業の一環として、生家（福岡県豊前市天和）の敷地内に頌徳碑が建立されました（高さ2メートル、幅4メートル、重さ11トン）。竿石は大分県で産出された石

を、台座には福岡県で産出された石が使用され、創始者墓所（多磨靈園）に隣接する頌徳碑と同様に、故・丸山竹秋会長が起草した碑文が刻まれています。

中島教育長から

協力者を代表して挨拶に立つた有光徳石材 代表取締役社長の水野裕司氏が、製作の経緯や工法の特徴を説明しました。その後、後藤元秀豊前市市長の代理として中島教育長より来賓祝辞を、福岡県倫理法人会の坂本靖男会長が会員祝辞を述べました。

式典の最後は、丸山理事長から豊前市に寄付目録が贈呈されました。倫理研究所では毎年、同市に100万円の寄付を行なつており、今回で35回目となります。



豊前市中島教育長（左）へ寄付目録を手渡す丸山理事長

# 教育およびその他の支援

## 丸山奨学生による支援

08

令和5年度も「丸山奨学生」200万円を中国内蒙古大学に支給しました。併せて3カ国8名のアジア諸国の留学生（丸山奨学生）にも奨学金総額895万円を支給し、勉学を支援しました。

国籍	研究機関	研究テーマ
中国	筑波大学	日本の前近代における家訓と家庭教育
中国	岩手大学	宮沢賢治文学における音楽の表象
中国	御茶の水女子大学	『青頭巾』における禅宗的悟道
中国	大阪大学	近現代字音接辞「感」の成立と展開
中国	神戸大学	日本の技術移転機関と産学マッチング
イスラエル	京都大学大学院	東南アジア開発援助をめぐる日中の競合
シリア	東京都立大学	移民・難民家庭での子供への継承言語
シリア	国際基督教大学	少数派イスラム教徒の安全保障

09

## 他団体への寄付・協賛

丸山奨学生は将来日本との学術・文化などの友好交流の架け橋として期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探求するとともに、「地球倫理」を富士高原研修所で体験学習し、日本の精神文化の理解を深めています。

令和5年7月15日、丸山敏秋理事長が伊勢神宮を訪れ、式年遷宮御造営資金として100万円を寄付しました。同寄付は平成8年の丸山理事長の理事長就任以来、倫理研究所として毎年行なつてきました。

そのほか、がん研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研究者に対する学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行なっている「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」への寄付・協賛を行ないました。

さらに、2月6日にトルコ東南部で発生し、死者が5万人を超えた大地震の見舞いのため、3月17日に大木武文理事がトルコ大使館を訪れ、ジェミル・ウフック・トールル一等参

事官に見舞金100万円の目録を手渡しました。

トルコと日本は1890年、和歌山県沖で沈没した軍艦エルトウール号の乗組員を同県串本の人々が救助したことから親交が深まり、親日国としても知られています。東日本大震災での3週間にわたる救助活動への感謝も込めて、今回の寄贈に至りました。トールル一等参事官は「皆様の善意を復興のために役立て参ります。皆様のメッセージも本国に伝えます」と謝意を述べました。

大震災での3週間にわたる救助活動への感謝も込めて、今回の寄贈に至りました。トールル一等参事官は「皆様の善意を復興のために役立て参ります。皆様のメッセージも本国に伝えます」と謝意を述べました。

また、同番組提供を機に、AMラジオ37局から「地球倫理推進賞」や「しきなみ子供短歌コンクール」などに毎年後援をいただいております。

【放送ネット局】北海道放送、青森放送、IBC岩手放送、東北放送、秋田放送、山形放送、ラジオ福島、新潟放送、信越放送、文化放送、山梨放送、静岡放送、北日本放送、北陸放送、福井放送、東海ラジオ放送、京都放送、和歌山放送、ラジオ関西、山陰放送、中国放送、南海放送、高知放送、RKB毎日放送、長崎放送、熊本放送、大分放送、宮崎放送、南日本放送、ラジオ沖縄、琉球放送)

10

## ラジオ番組の提供

次の世代に語り継ぎたい日本の「音」を伝えるラジオ番組「録音風物誌」の提供を令和5年度も継続しました。同番組は全国AMラジオ34局が持ち回りで制作している、放送開始から70年を迎える長寿番組です。



目録を受領するジェミル・ウフック・トールル一等参事官（右）

# 倫理の研究と成果の発信



「過去と未来」をテーマに開催した「倫理文化研究センターシンポジウム2022」

研究者	研究内容
内田智士 調査	善悪判断に関する認知科学的研究を行ない、利他的行動が社会に定着する条件について数理モデルの手法で

## 倫理文化に関する専門的研究

### 研究の方向と重点

純粹倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究を積極的に推進し、「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

門の事業に資する知的資産の拡充に努めました。なお、今年度は「倫理文化研究センターシンポジウム2022」を開催しました。

研究センターは、倫理運動に資する研究事業を推進しました。専門研究者を中心とした研究体制のもとで、純粹倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して、国内・海外へ発信しました。また、普及・教育・出版等の各部

倫理意識調査の実施
昨年度に引き続き、日本人の倫理意識定点調査を令和5年3月に行ないました。また、倫理意識についての企画調査を行ないました。

高橋 徹 高橋 テール	無形文化遺産としての日本食文化および伝統工芸の現代社会・文化における役割や意義について考察
松本亜紀	丸山敏雄が提唱する「無痛安産」および「性の倫理」の現代的意義と普及方法に関する研究と、女性性の本質に関する研究
平良 直	民俗伝統における農具の呪具的使用の意味に関する研究と、赦しに関する思想的・倫理的観点からの比較研究
丸山貴彦 水野雄司	道徳科の内容項目である「個性」と「礼儀」についての史学的考察

◇調査企画／倫理文化研究センター研究フェロー 海野裕(マーケティングプランナー)

◇調査目的／直近2年の倫理意識定点調査で、若年層(特に女子大学生)に倫理意識の高まりが見られた。各世代の中でも、なぜ女子大学生の倫理意識が頗著に高まっているのか、その要因と背景を調査

## 研究成果の発信

### 『倫理研究所紀要』(年刊誌)

純粹倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究など、倫理に関する多様な研究成果を発信しました。

通巻	第32号	掲載論文	発行部数
1270部		『論説』没倫理的な日本の倫理の構造	837号～848号

### 『倫理』(月刊誌)

純粹倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。

通巻	第5万6600号	発行部数
837号～848号		5万6600部

登録。また、創始者の遺品蒐集・保存作業、倫理運動史料の蒐集・整理を行ないました。

## 研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第38回大会では委員として企画実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、なればにその研究者との交流を図り、必要に応じてその活動を支援。「女性性の本質」に関する研究に対しても研究助成を行ないました。また、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

「日本家庭教育学会」「人体科学会」に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第38回大会では委員として企画実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、なればにその研究者との交流を図り、必要に応じてその活動を支援。「女性性の本質」に関する研究に対しても研究助成を行ないました。また、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

「日本家庭教育学会」「人体科学会」に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第38回大会では委員として企画実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、なればにその研究者との交流を図り、必要に応じてその活動を支援。「女性性の本質」に関する研究に対しても研究助成を行ないました。また、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

「日本家庭教育学会」「人体科学会」に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第38回大会では委員として企画実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、なればにその研究者との交流を図り、必要に応じてその活動を支援。「女性性の本質」に関する研究に対しても研究助成を行ないました。また、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

「日本家庭教育学会」「人体科学会」に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第38回大会では委員として企画実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、なればにその研究者との交流を図り、必要に応じてその活動を支援。「女性性の本質」に関する研究に対しても研究助成を行ないました。また、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

【追加調査】

◇調査目的／日本人のIntegrity(誠実さ・首尾一貫性)について調べるために、定点調査で測定している「倫理33」と「ダブルスタンダード」「付和雷同性」「女性蔑視」の存在認知と許容度がどの程度の関連を示すのかを調査

◇調査対象／20歳以上の一般男女(1200人)

◇調査期間／令和5年8月16日～18日

## 各種研究会の開催

(2回)、倫理文化の専門的研究に関する研究会(2回)を開催しました。

執筆者	テーマ	掲載論文	発行部数
佐伯啓思 與那霸潤	『論説』没倫理的な日本の倫理の構造	『論説』危機のなかの古典(続々)－村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンドーランド』	1270部

## 研究資料の蒐集と提供

実践体験事例1419篇、研究論文221篇を分類整理・保存しました。併せて、教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

## 倫理資料館の運営・管理

純粹倫理の研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する図書資料の充実を図りました。今年度は、新たに計1270冊を図書資料として

# 家庭倫理の普及

家庭倫理の会は「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、純粹倫理を基盤に家庭の愛和を実践する人々の輪を拡げて、地域の教育力向上に貢献すべく、活動の充実を図りました。



家庭倫理の会 会長170名が一堂に会して、活動の思いを伝えた「全国会長会」

家庭倫理の会は、子育て活動を通して、子育てに関する自信と安心を高める活動を展開。シニア活動は、晩年の生きがいを見出す人々の相互交流につながる多彩な活動を通して、次世代の幸せを念じ、いきいきとした人生を歩むシニア会員の輪を広げる活動に注力しました。また、青年活動においても、各地域で社会に貢献できる青年の育成に努めるなど、世代間のつながりを強く結ぶべく諸活動を実施しました。

## おはよう倫理塾

純粹倫理の学習と実践を自発的に求める人々を対象に、早朝の自己鍛錬と心境向上の場として開催しました。型に則った内容を遵守し、実践報告や講話を通じて純粹倫理に対する理解を深めました。

## 子育てセミナー

各家庭倫理の会において①妊娠婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粹倫理の普及に努めました。



開催会場	参加者数
532カ所	71万3202名

開催回数	参加者数
1174回	6902名

## 子供倫理塾

「学び・遊び・躰」をテーマに、小学生を対象とした「子供倫理塾」を開催しました。純粋倫理についてやさしく解説するとともに「5アクト」の実践を奨励して、基本的な生活習慣を学びました。

開催回数	参加者数
9回	933名

## 子育て発表会

都道府県単位で開催し、1年間の活動の成果を語り合い、感動を共有しました。



開催回数	参加者数
367回	2293名



開催回数	参加者数
9回(シニア活動発表)	1751名

## シニア活動

高齢層の会員および未会員を対象とした催しを企画し、活気溢れる相互交流の場を提供する活動を各地で開催。高齢層の社会的な孤立化を未然に防ぎ、晩年の生きがいを見出せるよう、会独自の「シニア活動」や県主催の「シニア活動発表会」など、創意工夫を凝らした活動を行ないました。

## 青年活動

### 青年フォーラム2023

生涯局では、青年層の会員を対象にした8カ月間の体験学習プログラム「青年倫理塾 IMA」を開催。今年度の青年フォーラムは、青年倫理塾の

塾生が学びの成果を発表する場として位置づけ、これまでの弁論発表を中心とした演目でプログラムを構成。さらに、世代をつなぐスピーチや伝統芸能などを披露し、各開催地の特色を生かしたフォーラムを開催しました。

各フォーラムの当日には、生涯局の鈴江 章局長より青年倫理塾の趣旨を説明。「日本を知ることは自分を知ることにつながる」と、青年たちが日本の伝統や文化を学ぶ重要性を強調したうえで、「成長の手ごたえを語る青年たちを温かく見守ってください」と来場者に呼びかけました。

今年度は、東京都・大阪府・福岡県・沖縄県の4会場で開催。来場者を巻き込んだクイズ形式での発表や、両親への感謝の思いを手紙や歌に込めた「両親レポート」など工夫を凝らした内容に、会場は笑いと感動に包まれました。

## 純粋倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に開催しました。純粋倫理の基本を『純粋倫理入門』(テキスト本)に基づいて学習し、純粋倫理の理解を深めるとともに実践意欲を高めました。



会場	来場者数
一ツ橋ホール（東京都）	544
松下IMPホール（大阪府）	498
北九州芸術劇場（福岡県）	645
てだこホール（沖縄県）	412
合計	2,099

# 企業倫理の普及

倫理法人会は、国内会員社数10万社達成に向け、堅実な普及活動により確実な成果をあげつつ、5カ年毎に中期計画を設け、段階的に挑みました。

企業に倫理を！



全国で開催し、好評を博した「倫理経営講演会」。倫理経営を各地域にアピールした

令和5年度は、純粹倫理を正しく学んで実践に励み、家庭や職場・地域社会における連帯の絆を強化して「心の経営」をめざす同士の輪を広げ、中期の目標である「8万社体制確立」に向けた計画を力強く推進しました。

## 倫理経営講演会

「経営力を磨く—自己変革に挑む」をテーマに、令和5年1月～5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演を交え、倫理経営の重要性や、職場に鋭気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

とともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	参加者数
3万5429回	106万1490名



## 経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得する

## 職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力溢れる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。



朝礼研修実施回数	120回
参加者数	1415名

慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。

開催地	1都12県
塾生数	150名



## 倫理経営塾

倫理経営を正しく理解・実践して、健全な企業経営を行なう経営者の育成と、倫理経営の社内浸透による、企業繁栄の実現をめざして開催しました。

開催地	1都4県
-----	------

## 経営者の集い

業態により「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粹倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で開催しました。

開催回数	1679回
参加者数	2万616名

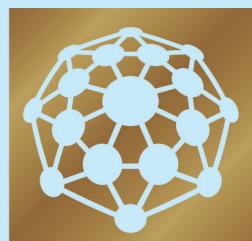
## 講師・幹部の養成

純粹倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経営講演会」における事業体験報告者の話力向上のため同報告者研修を実施。さらに、「法人レクチャラー研修」「倫理経営インストラクター研修」を富士高原研修所で開催するなど、講師陣の指導力向上に努めました。

認定企業数	197社(期末)
-------	----------

## 「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。令和5年度は新たに7社を認定し36社の更新審査を実施、認定証を授与しました。



RINRI 17000

## 後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粹倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習

# 海外の普及

「アジア（世界）のタグボート」を念頭に、国情に応じた倫理普及および地球倫理の実践活動を推進し、海外倫理法人会の拡充を図りました。

## 台湾

36周年を迎えた「中華民国倫理研究学会」は自主運営を尊重しつつ、活動を支援。「アジア台灣企業倫理促進会」は、令和5年5月20日に「設立7周年慶祝大会」を開催。日本からは4年ぶりに内田文朗地球倫理推進本部長と那須隆理事が出席しました。本部長より「台湾を起点に倫理経営をアジアに広めてほしい」と挨拶があり、参加者はアジア普及の中核となる活動と会のさらなる発展をめざす活力となりました。

## アメリカ

「南カリフォルニア倫理の会」の組織運営と普及力向上を支援、「カリフォルニア州倫理法人会」の人材育成と組織拡充支援のため、定期的に講話をウェブ配信しました。令和5年4月16日には「米国倫理運動創始50周年記念式典」を開催。また、米邦字新聞『ニューヨーク・タイムズ』に毎週倫理経営に関する記事を掲載し、ニューヨークを中心に全米の日系人に広く倫理経営を伝えました。

## ブラジル

「ブラジル倫理の会」の組織運営と普及力の向上をめざすとともに、地域に貢献する実践活動を養うため、定期的にウェブにて情報交換を行いました。「サンパウロ州倫理法人会」には、2拠点の倫理法人会の人材の発掘・育成および拡充を図るため、定期的に日本の講師による講話をウェブにて発信しました。

## 中国

「倫理研究所中国事務所」を拠点に、既に交流のある諸団体との関係を強化し、諸機関とタイアップしながら中国における人的交流を推進しました。1999年にスタートした「地球倫理の森」創成事業は、中国の国内事情により、今年度をもつて終了となりました。クブチ沙漠の植林事業は、今後「地球倫理の森」記念碑周辺の松やポプラの木の管理・維持のみ継続することとし、ウランブハ砂漠については全て終了といたしました。



アジア台灣企業倫理促進会「設立7周年慶祝大会」を開催

# 書道や短歌などの文化活動



# 秋津書道会



会場数	月刊誌『秋津書道』年間出品者総数
254 支苑	2万9402名

「自分の思いを書く」ことを通して個性の発揚や純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。また、世代をつなぎ家族の絆を深める「家族書道教室」の開催と、「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り、活動の活発化に着実な成果を上げました。



会場数	月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数
340 支苑	6万2901名

# しきなみ短歌会

# しきなみ短歌会

短歌づくりを通して純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。世代をつなぎ家族の絆を深める「家族短歌教室」や、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティア、「初めての短歌教室」などの開催を通して、地域の教育力向上に貢献しました。

# 倫理を学ぶ多彩なセミナー

# 青少年育成に関するセミナー

## 小学生親子セミナー

小学生は「やればできる」、保護者は「子どもを信じる」をテーマに学習しました。池での水遊び、トマト収穫キャンプファイヤーなど、豊かな自然環境の中でのびのびと過ごしながら自立心や協調性を養い、4年ぶりとなる富士山トレッキングも実施。保護者は、親子相関の原理を中心にして深めました。

(令和5年8月開催)



参加者数  
(1組) 49名

## 中学生セミナー

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。令和5年度は4204名の受講生が純粋倫理の学びを深め、実践力の向上を図りました。

(令和5年7月開催)

大自然の中で倫理の学びを肌で感じ、実践力を高めた受講生

参加者数  
(6組) 284名

## 家庭教育に関するセミナー

### 生活倫理セミナー

「ふるさと・いのち・愛」をテーマに開催。丸山敏雄記念館を活用し、特別展示「丸山敏雄と鳥居武二展」を行いました。「伝承日本」の鑑賞やグループトークなどに取り組み、実践力の向上に努めました。



参加者数  
(7組) 681名

企業教育に関するセミナー  
経営者倫理セミナー

倫理実践力の向上をねらう「まごころ実践13」のセルフチェックで自己客観力を養うとともに、事業体験

のケーススタディーから倫理経営を学びました。また、倫理を体感する講座・実習を通して互いに切磋琢磨し、チームワークを形成して実践力を高めました。

参加者数  
(12組) 1274名

幹部社員・一般社員を対象に、自社における「活力朝礼」の積極的な活用法や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と実習を開催しました。

### 社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、自社における「活力朝礼」の積極的な活用法や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と実習を開催しました。

参加者数  
(4組) 168名

### 新入社員倫理セミナー

社会人として第一歩を踏み出すために、挨拶や後始末などの日常生活での基本動作の体得をめざしました。また、チームワーク向上を体感する講義・実習などを通して、活力を引き出すとともに学生気分の一掃を図りました。

参加者数  
(3組) 126名

ナーセミナーを6組開催しました。いずれも事前に打ち合わせを行ない、目的に応じたオリジナルのプログラムを実施しました。

参加者数  
(6組) 287名

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学習しました。

### 特別セミナー

#### 丸山敏雄とその時代(含天和開催)

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学習しました。

参加者数  
(5組) 298名

### 愛和のみぞぎセミナー

心身を浄化し、世の中に貢献する方々を探ることを目的に開催し、参加者は経営者セミナー・チャレンジコースの受講者に限定。実習を通して、自然然を受容し感謝の心で「人・物・自然に接する意識」を見つめ直しました。

参加者数  
(3組) 64名

### その他のセミナー

#### 生活倫理相談士セミナー

令和5年度は8組開催。相談士講座のガイドブックを作成し、聞き方の実習などを行ないました。

参加者数  
(8組) 508名



# 出版物の刊行

倫理運動の普及推進に資する出版物の刊行を各部門と連携して行ないました。

## 定期刊行物

月刊誌

### 『新世』

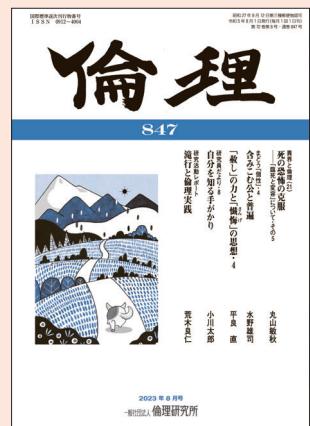
生涯学習総合誌として、夫婦、親子、嫁姑、職場の人間関係を円滑にするポイントや、心豊かな暮らしを実現するためのヒントとなる記事を掲載し、幅広い世代の読者層に純粹倫理をアピールしました。



通 巻	発行部数
117万部	900号～911号

### 『倫理』

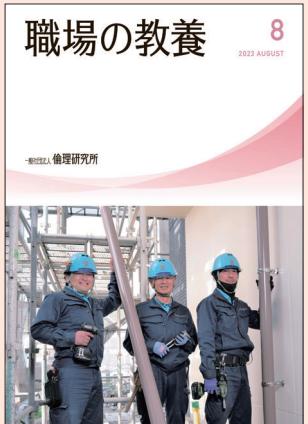
純粹倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。（関連記事17頁）



通 巻	発行部数
5万6600部	837号～848号

### 『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提供しました。朝礼での活用を通じて自己を見つめ直し、職場や家庭で実行できるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。



通 巻	発行部数
561号～572号	2265万部

### 『秋津書道』

短歌を通して生活の浄化と個性の発揚をめざし、純粹倫理の学びと倫理普及に取り組んでいます。会員の毎月の作品発表の場として、出詠者数日本一の短歌誌の名に恥じぬよう、内容の充実を図りました。



通 巻	発行部数
918号～929号	8万3400部



## 隔月刊誌

### 『倫理ネットワーク』

倫理法人会の情報誌として、倫理経営の要点や法人局研究員による連載を掲載し、会員各位が事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、活力ある誌面構成に努めました。



通 巻	発行部数
158号～163号	57万6000部

倫理法人会の主要事業・行事および全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外普及活動などの報告記事を掲載。主な記事としては、家庭倫理の会設立をはじめ「子育てセミナー」、「シニア活動発表会」、青年活動など各地の家庭倫理の会の諸活動や、倫理法人会の設立をはじめ「倫理経営講演会」、開設式典、周年行事、年度目標達成に向けた取り組みなど、各

地で行なわれた倫理法人会の諸活動を紹介。対外活動としては、「第18回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」「第26回地球倫理推進賞贈呈式」などを紹介しました。

回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」「第26回地球倫理推進賞贈呈式」などを紹介しました。

## 『過去と未来 倫理文化研究叢書9』

倫理研究所編

「倫理文化学」構築の一環とするため、令和4年11月に開催された「倫理文化研究センターシンポジウム二〇二二」を記録集としてまとめ、研究者7名による研究発表を掲載し、発行しました。（関連記事17頁）



通 巻	発行部数
783号～794号	141万3600部

## 風のゆくえ

丸山敏秋著



## 書籍 『風のゆくえ』

丸山敏秋著

### 手帳・カレンダー 「2023 標語カレンダー 今日の道しるべ」

31日分の標語と3行のワンポイントアドバイスによつて、純粹倫理の学びと日々の実践を明確に表しました。

販売部数  
12万4131部

販売部数  
12万4131部



販売部数
7655部

## 「実践手帳 2024」

「ホワイト」と「ピンク」を発売。週間予定の上部には、既刊書籍から選出した倫理の言葉を掲載しました。



# 組織概要

## 会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数（公称/2023年9月1日現在）

家庭倫理の会	110,000名
倫理法人会	70,000社
秋津書道会	3,800名
しきなみ短歌会	5,600名

会費（月額）

個人	500円
賛助	1,000円
協賛	3,000円
特別賛助	10,000円
法人	10,000円（1口）

秋津会員	1,500円
〃（ジュニア会員）	800円
しきなみ会員	1,000円
〃（ジュニア会員）	500円

## 組織概要

名 称	一般社団法人倫理研究所
英文名称	RINRI Institute of Ethics
理事長	丸山敏秋
副理事長	前川朋廣
常任理事	鈴江 章／和田 育
理 事	10名
監 事	2名
職 員	127名
所在地	〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5 TEL 03-3264-2251 FAX 03-3239-7431
創 立	1945年9月3日（倫理運動創始の日） 1948年10月30日に社団法人設立許可
目 的	2013年9月2日に一般社団法人へ移行 倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
事 業	1. 社会教育事業 2. 研究事業 3. 出版・広報事業 4. 文化事業 5. 地球倫理推進事業

ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

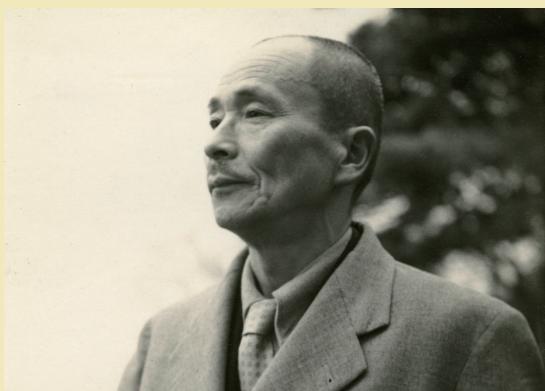
## 創始者・丸山敏雄

1892(明治25)年5月5日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938(昭和13)年に「秋津書道院」、1946(昭和21)年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粹倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粹倫理を体系づけることに力を注ぐ。

1945(昭和20)年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」(現・倫理研究所)を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粹倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栄』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数。

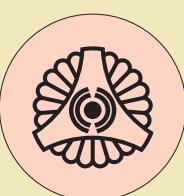
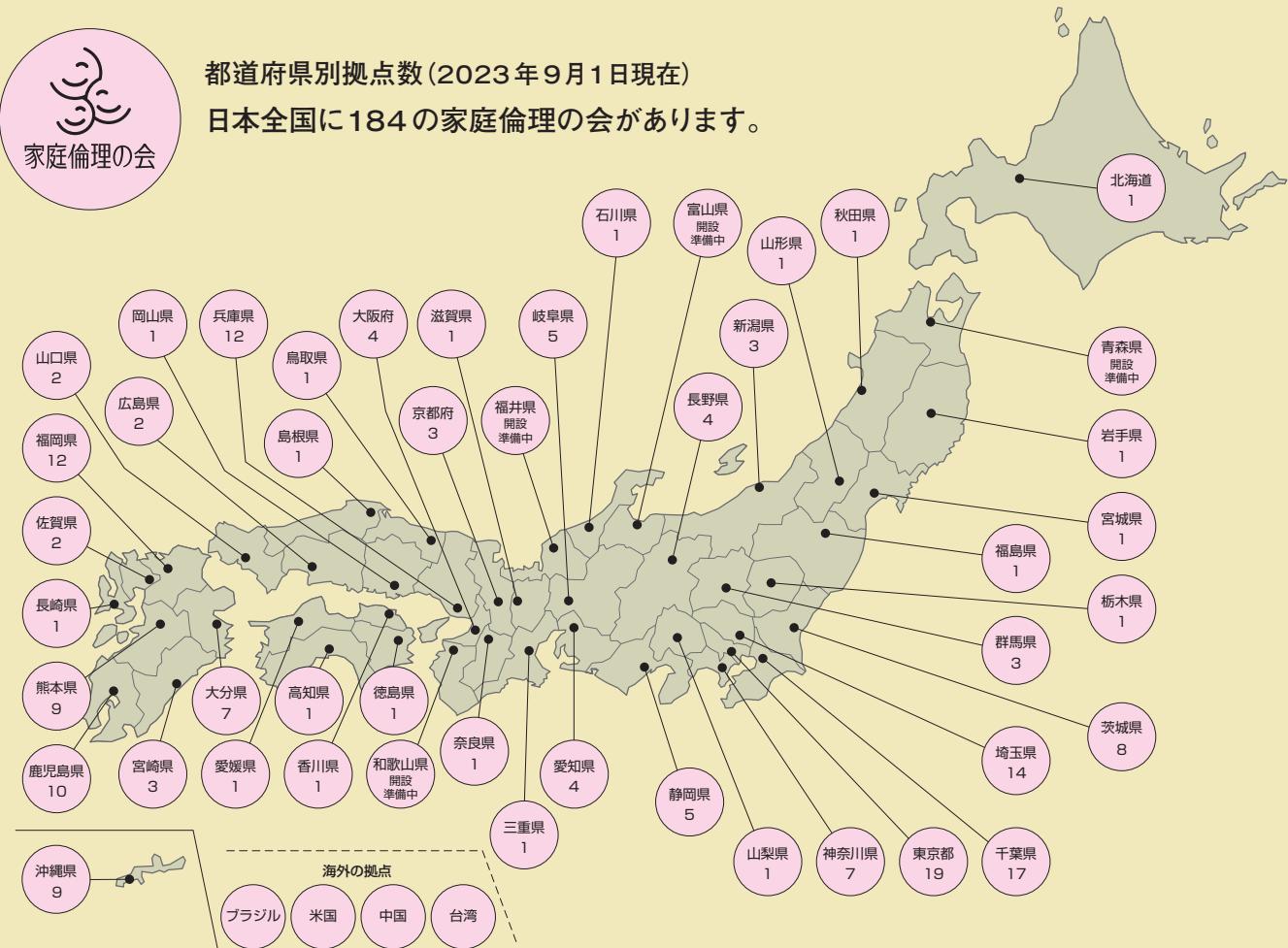
1951(昭和26)年12月14日逝去。

丸山敏雄ウェブ <https://founder.rinri-jpn.or.jp>

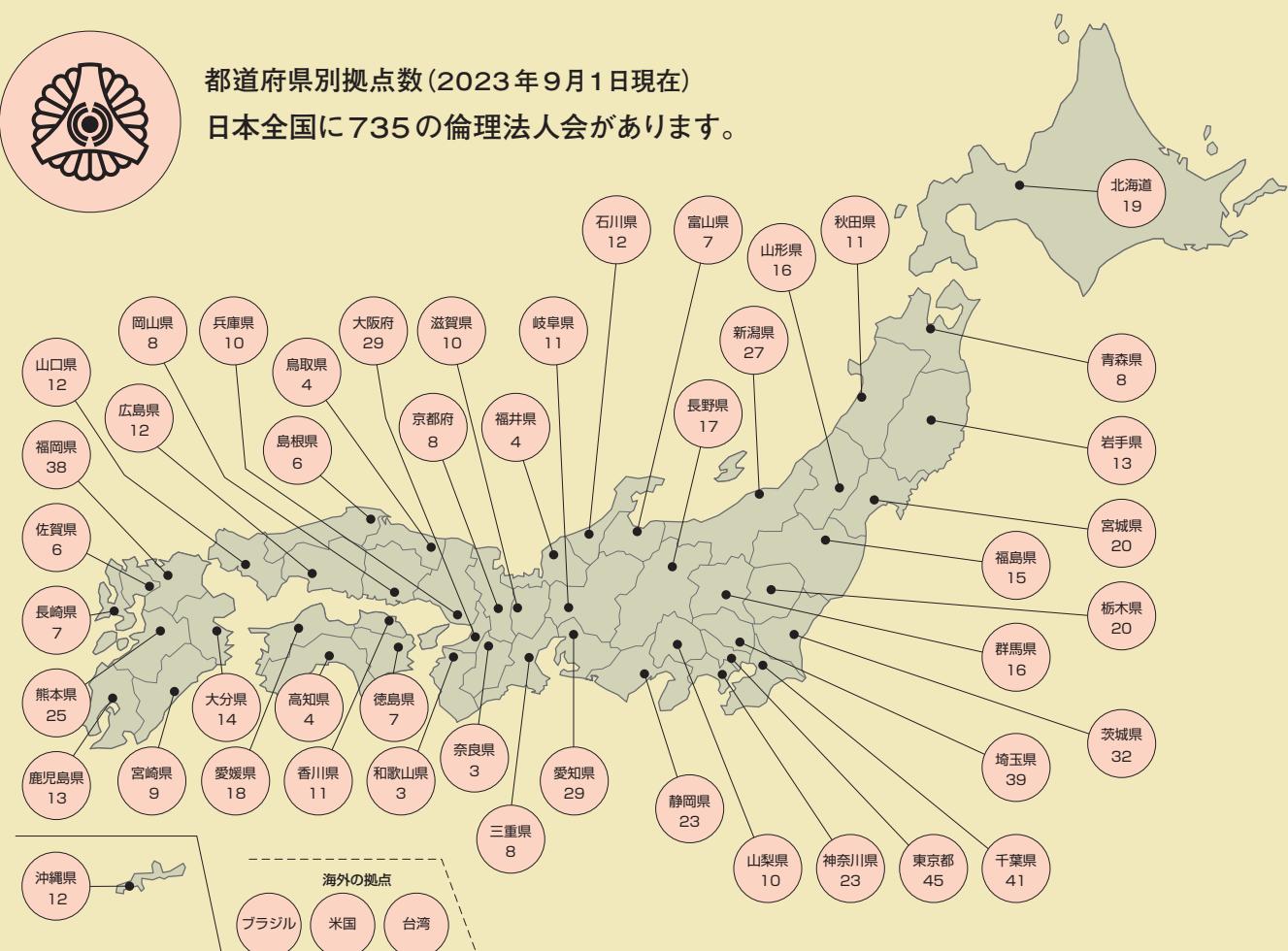




都道府県別拠点数(2023年9月1日現在)  
日本全国に184の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数(2023年9月1日現在)  
日本全国に735の倫理法人会があります。



## 主要施設



### 倫理研究所（本部）

倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報などの各種業務を行なっています。

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5



### 紀尾井清堂

倫理運動創始75周年を記念して令和2年に竣工。本部の真向かいに位置し、展示室やホールを備えています。

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-1



### 富士高原研修所

純粋倫理の理論的・実践的学习の場として、小学生から成人を対象にした各種セミナーを行なっています。敷地内には他に、富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。

〒412-0008 静岡県御殿場市印野1383-9



### 倫理資料館

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。

〒180-0022 東京都武蔵野市境5-6-25



### 天和会館

倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家(2006年復元)に隣接した会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。

〒828-0081 福岡県豊前市大字天和392-1

## 沿革

1945 年	丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。	2000 年	ブラジル・サンパウロに拠点開設。
1946 年	新世文化研究所設立(初代所長・丸山敏雄)。 短歌誌『しきなみ』創刊。	2001 年	新富士高原研修所グランドオープン。
1947 年	新世会設立。翌年、社団法人の許可を受ける。月刊誌『文化と家庭』創刊(1949年『新世』へ改題)。	2005 年	個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。 「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
1948 年	新世会が社団法人の許可を受ける。	2006 年	第1回しきなみ子供短歌コンクール表彰式開催。 創始者生家(復元)竣工。
1949 年	「朝の集い」開始(上野、神田、銀座、市川)。	2007 年	倫理法人会5万社達成記念大会開催。
1951 年	新世会を倫理研究所と改称。丸山敏雄逝去。 丸山竹秋、理事長に就任。	2009 年	「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。 丸山竹秋没後10年記念大会を開催。
1952 年	月刊誌『倫理』創刊。	2010 年	日中実践倫理学討論会2010開催。
1953 年	月刊誌『秋津書道』創刊。	2011 年	富士教育センターオープン45周年記念式典開催。 グランドデザイン完成。
1958 年	『10分間の教養集』創刊(1976年創刊の『職場の教養』の前身)。	2012 年	創始者生誕120年記念式典開催。
1966 年	富士高原研修所竣工。	2013 年	一般社団法人へ移行。
1967 年	中日支所設立、支所体制がスタート。	2014 年	「地球倫理の森」創成15周年記念式典開催。 長年の沙漠緑化活動が「第6回中国環境発展要人フォーラム」で表彰される。
1968 年	初の全国青年弁論大会開催。	2015 年	「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。 創立70周年記念全国青年弁論大会開催。
1973 年	アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。	2016 年	倫理法人会全国代表者大会開催。台湾にアジア台灣企業倫理促進会設立。本部移転。南カリフォルニア倫理法人会設立。富士教育センター開設50周年記念式典開催。
1980 年	千葉県に第1号の倫理法人会発足。	2017 年	オレンジカウンティ倫理法人会設立。 サンパウロ倫理法人会設立。
1984 年	天和会館(丸山敏雄生誕地記念館)落成。	2018 年	カリフォルニア州倫理法人会設立。
1985 年	丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱(創立40周年記念大会にて)。	2019 年	全国青年フォーラム2019開催。 「地球倫理の森」創成20周年記念式典開催。 カンピーナス倫理法人会設立。
1986 年	中華民国(台湾・台中市)に拠点開設。	2020 年	創始75周年記念事業として建設を進めていた紀尾井清堂が竣工。
1987 年	第1回日中実践倫理学討論会開催。	2022 年	倫理法人会7万社大会開催。 紀尾井清堂にて「奇跡の一本松の根展」開催。
1989 年	丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。	2023 年	米国倫理運動50周年記念式典開催。
1990 年	倫理法人会1万社達成記念大会開催。		
1991 年	年刊誌『倫理研究所紀要』創刊。		
1995 年	丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表(創立50周年記念大会にて)。		
1996 年	丸山敏雄、理事長に就任。		
1997 年	第1回地球倫理フォーラム(「まなびピア新潟」協賛)開催。		
1998 年	第1回地球倫理推進賞贈呈式開催。 倫理資料館竣工。		
1999 年	創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。		

## 倫理会館

### 岐阜倫理会館

〒501-0234 岐阜県瑞穂市牛牧 1496-1

### 大阪倫理会館

〒534-0025 大阪府大阪市都島区片町 1-7-20

### 加古川倫理会館

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 642-1

### 広島倫理会館

〒733-0012 広島県広島市西区中広町 3-24-16

### 大牟田倫理会館

〒836-0006 福岡県大牟田市大黒町 1-29-1

### 京都倫理会館

〒605-0907 京都府京都市東山区川端五条下ル西橘町 470

### 神戸倫理会館

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町 4-14-16

### 龍野倫理会館

〒679-4167 兵庫県たつの市龍野町富永 410-1

### 北九州倫理会館

〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借 2-7-28

### 鹿児島倫理会館

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 21-2



一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5 TEL 03-3264-2251  
ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

発行：一般社団法人倫理研究所 編集：倫理研究所総務部 発行日：2023.12.20